



綴プロジェクト作品 国宝 松林図屏風しょうりんずびょうぶ  
長谷川等伯筆 寄贈先・原本所蔵：東京国立博物館

墨の濃淡が心に染みわたる、水墨画の傑作。

白い空間に墨でひかれた線。ただそれだけなのに、霞の間に静謐な松林が浮かびあがる。見る人の心に深く染みてくる。「松林図屏風」は、安土桃山時代を代表する絵師、長谷川等伯の五十代の作品といわれている。円熟期を迎えた等伯が、中国伝来の水墨画と日本伝統の大和絵への深い造詣をもとに、自身の目に映る日本の景色を、墨の濃淡と大胆な余白で情緒豊かに表現した。日本の水墨画の到達点とも呼べる作品だ。

国宝「松林図屏風」は、東京国立博物館所蔵。二〇〇七年に綴プロジェクトが寄贈した高精細複製品は、この近世水墨画の最高傑作を多くの方に体験していただくため、畳の部屋で屏風を間近に眺めたり、屏風本来の使い方を学ぶ機会を作るなど、様々な形で活用されています。このような高精細複製品だからこそその体験や学習の機会が、日本の美への新たな発見や感動を広めています。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品38作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト  
でご覧いただけます。  
[global.canon/ja/tsuzuri](http://global.canon/ja/tsuzuri)

公開情報

綴プロジェクト作品「松林図屏風」は二〇一九年一月二日(水)～二月三日(日)に東京国立博物館にて公開が予定されています。(原本の公開は一月二日～十四日予定)

Canon